主科目	臨床腫瘍学	板橋	副科目	有・無

指導教員	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
	◎関順彦（病院教授）	渡邊　清高	市川　靖子	本田　健	醍醐弥太郎　（特任教授） 江口　研二　（客員教授）

教育目標

臓器横断的な体系的知識を基盤として、がんの総合臨床医としての専門家を目指す。最新の臓器横断的ながん薬物療法について学ぶ。がん病理学および画像関連解剖学、各臓器がんの病態生理を学ぶ。意識障害、治療関連感染症などのがん緊急医療、進行がん診療に適切な対応ができる能力を身につける。がん遺伝疾患・がんリスク因子について学ぶ。がんの実験治療と標準的治療とについて理解し、緩和医療も含め実践できる能力を身につける。集学的治療の方針を理解し、関連科との良好な連携とチーム医療体制を指導ができる能力を身につける。新たな治療法開発の臨床的方法論（初期臨床試験、大規模臨床試験、メタアナリシスなど）を修得する。下記の2つのコースからなる。
（地域でがんを診る総合医養成コース）多職種による地域における療養支援のリーダーとして診療を行うことのできる医師を育成する。
（臨床試験グループリーダー養成コース）がんに関する多施設共同研究のリーダーとなる医師を養成する。

行動目標

（両コース共通）
① 最新の臓器横断的ながん薬物療法に修熟し、安全に実施できる。
② 基本的がん病理学および画像関連解剖学をもとに、各臓器がんの病態生理を説明できる。
③ 意識障害、治療関連感染症などのがん緊急医療、いわゆる腫瘍随伴症候群も含め進行がん診療に適切な対応ができる。
④ がん遺伝疾患・がんリスク因子に関する適切な説明ができる。
⑤ がんの臨床試験と標準治療とについて説明し、緩和医療も含め実践できる。
⑥ 新たな治療法開発の臨床的方法論（初期臨床試験、大規模臨床試験、メタアナリシスなど）を修得し、実践することができる。
⑦ がん患者の診療に必要なコミュニケーション技術を含めて、学部学生、研修医の指導をすることができる。
⑧ 英文医学学術論文を要約、国際学会も含め自ら症例報告したり、指導医のもと自己課題研究を遂行し報告できる。
（地域でがんを診る総合医養成コース：詳細は同コースの概要説明を参照のこと）
総合医-① 転院、在宅診療等、円滑な地域連携に必要な役割を理解し、複数診療科の連携を実践できる。
総合医-② 併存疾患による臓器リスクを考慮に入れた治療方針を理解し、がん治療と併存疾患マネージメントの両立を実践できる。
総合医-③ 集学的治療の方針を理解し、関連科との良好な連携とチーム医療体制にリーダーシップを発揮できる。
（臨床試験グループリーダー養成コース：詳細は同コースの概要説明を参照のこと）
臨床試験-① 国内・国外の新規治療法開発の動向を理解し課題を説明できる
臨床試験-② 生物統計学について理解し、臨床試験のプロトコールを立案できる。
臨床試験-③ 多施設共同試験における課題について理解し説明できる。

学習内容

	タイトル	開催日時	担当教員
講　義	講義（別途指示）	指定日	関、渡邊、市川、本田
実　習	画像診断	火曜 19:00-20:00 木曜 17:00-18:00	関
	Bedside tutorial	月曜　8:00-9:00 金曜17:00-18:30 月－土曜	関、渡邊、市川、本田
演　習	症例検討会・抄読会	月曜 12:30-14:00	関、渡邊、市川、本田
	Cancer board（臓器別、月1回） 消化管 肝胆膵 乳腺(毎週) 肺癌 婦人科がん(隔週)	月曜 18:30-19:30 火曜 18:00-19:30 水曜 18:30-20:00 月曜 16:00-16:30	関、渡邊、市川、本田
	帝京がんセミナー（不定期）	第3木曜　19:00-20:30	関、渡邊、市川、本田

学習方略

① 第1、2学年にあっては、指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育、他科からのコンサルテーションを履修する。
　同時に講義、演習、実習を修学する。（行動目標①-⑧）
② 第2学年にあっては、第1学年の内容に加え、病棟以外に外来実習（半日／週）を指導医のもとに履修する。
　（行動目標①-⑧）
③ 第3、4学年にあっては、原則病棟主治医を離れ、講義、演習、実習、外来実習にて臨床経験を継続するとともに、
　指導医のもとに実験／研究に従事し学会発表、研究論文を作成する。（行動目標　総合医①-③または臨床試験①-③）
④ 第3、4学年にあっては、指導医のもとに学部学生、研修医の指導を行うことができる。（行動目標⑥⑦）
⑤ 4年間のうちに共通科目を履修する。（行動目標①-④⑥）

学習事前準備

最新の国際的診療ガイドライン（ASCO、NCCNなど）、国内各臓器がん関連学会診療ガイドラインをみておく

評価

演習等の課題、発言の積極性や内容、学会発表等を評価

関連科目

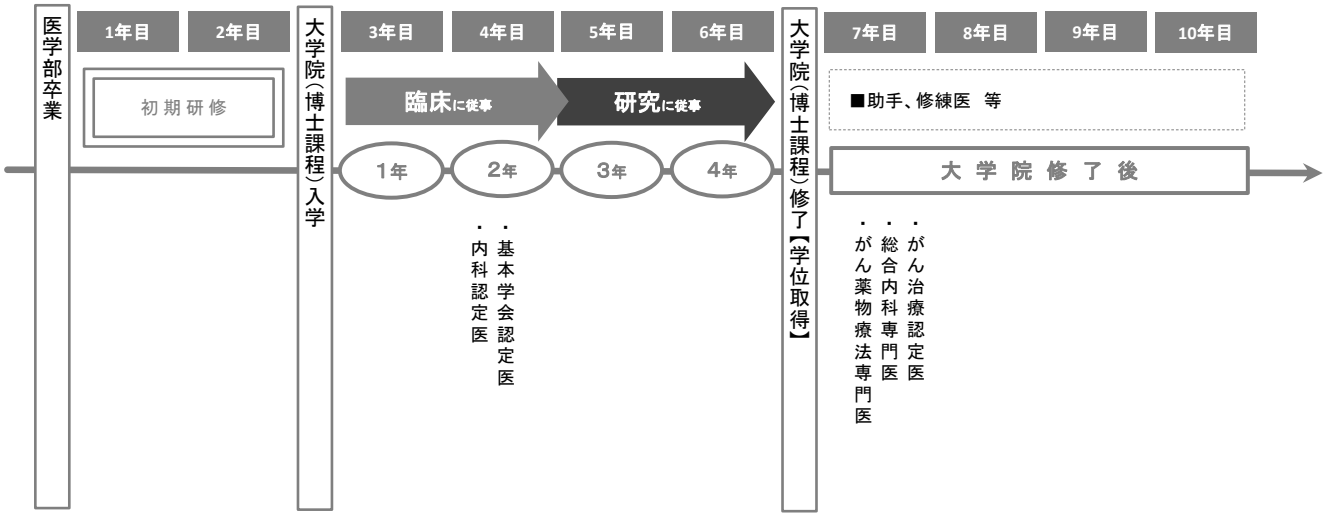
副 科 目：1)5大がん（消化器、乳腺、肝胆膵、呼吸器）関連学科、血液腫瘍学、緩和医療学、公衆衛生医学（臨床試験）などの関連領域を1科目以上、3か月コースまたは講義･演習コースにて履修する。
2) キャンサーボードは副科目とすることができる（通年で2単位）。

共通科目：

関連する専門医資格

日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医
日本緩和医療学会専門医
厚労省がん緩和医療研修会修了認定

キャリアパス（モデルコース）



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。また、医師・薬剤師・看護師・ソーシャルワーカー・ケアマネージャーなど多職種を対象とするが

＜副 科 目＞

対 象	がん診療関連学科を専攻する院生（医師）、後期研修医、数名	
履修期間と単位	指導医のもと腫瘍内科病棟・外来における臨床履修3ヶ月以上1年以内で8単位、講義･演習／実習15時間の履修で1単位とする。	
一般教育目標	臓器横断的な体系的知識を基盤として、がんの総合臨床に関する標準的な診療レベルを学び、それぞれの専門分野との関連を深めることを目標とする	
行動目標	① 分子標的薬も含め最新の臓器横断的ながん薬物療法に修熟する。 ② 基本的がん病理学および画像関連解剖学を説明できる。 ③ 5大がんの進展プロセスと画像診断の関連を説明できる。 ④ 意識障害、治療関連感染症などのがん緊急医療に適切な対応ができる。 ⑤ いわゆる腫瘍随伴症候群も含め進行がん診療に適切な対応ができる。 ⑥ がんの実験治療と標準的治療とについて説明し、緩和医療も含め実践できる。 ⑦ 集学的治療の方針を理解し、関連科との良好な連携とチーム医療体制を理解できる。	
学習方略	1) 3ヶ月腫瘍内科実習コース	学会認定指導医のもと腫瘍内科診療（病棟及び外来）に主治医として従事し、主科目「臨床腫瘍学」の講義／実習／演習を履修し、8単位が取得できる（行動目標①②③④）。
	2) 講義･演習コース	月曜日13時―16時の腫瘍内科（月4―5回）と臓器がん別キャンサーボード（月4回）帝京がんセミナー（不定期）腫瘍内科特別セミナー（不定期）に参加し、2単位を取得できる（行動目標①⑥⑦）。
到達度と評価	3ヶ月の腫瘍内科実習コースでは、担当する指導医と科長により、講義･演習の課題、発言状況、実習態度の評価をする。	

主科目	臨床腫瘍学	TOP がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育
がんプロコース	地域でがんを診る総合医養成コース	

専門分野

がんを診る総合医

養成する医療者像

medical oncology（臨床腫瘍学）は、臓器横断的にがんの体系的な知識を基盤とする新しい分野である。分子マーカーによる薬剤選択を活用し、分子標的薬を用いた、各臓器がん横断的ながん薬物療法が進んでいる。
本コースは、多職種による地域医療連携のリーダーとなる「がんを診る総合診療スタッフ」育成を目標とする。最新の臓器横断的ながん薬物療法、がん病理学および画像関連解剖学を学ぶ。各臓器がんの病態生理、がん遺伝疾患・がんリスク因子について学ぶ。がん患者・家族、チーム医療者などとのコミュニケーション技術を修得する。がん薬物療法、放射線治療、手術、その他の治療法の基本的事項、リスクベネフィット等を理解する。転院、在宅診療等、円滑な地域連携に必要な役割を実践できる能力を身につける。在宅診療などに必要な複数診療科の連携体制について理解する。新たな治療法開発の臨床的方法論（初期臨床試験、大規模臨床試験、メタアナリシスなど）を修得し、診療ガイドラインを理解し、専門機関と連携して実践することができる能力を身につける。

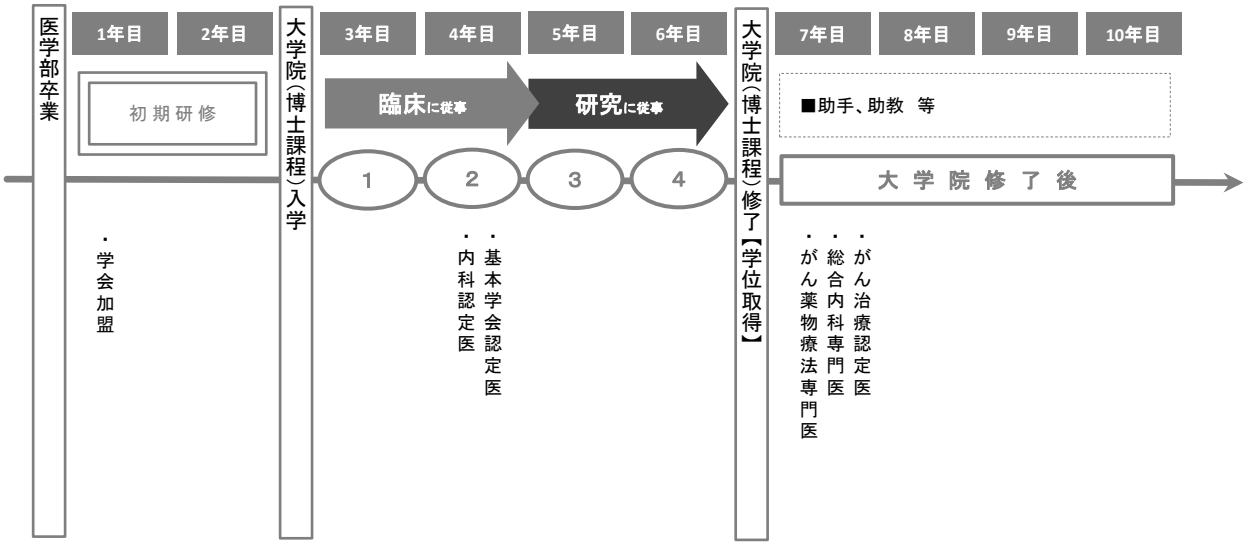
概要と特色

＜概要＞
がん患者では複数の併存疾患や臓器機能の低下状態ががん治療を左右することになる。
診療所、中小規模病院など、患者の身近なところで地域連携がん診療の核となる活躍を期待しうる。
地域連携の医療体制について、実地診療の中での連携実習、多職種グループ研修を課程に含め、またE-learningも活用する予定。

＜内容・特色＞
地域の診療所・病院において、総合診療およびがん専門診療としての知識技術を修得し、専門的がん診療医療機関と連携して、治療中・治療後のがん患者の日常診療を担当する。地域における切れ目のないがん診療の質の向上と多職種スタッフによるがん患者の療養・生活支援体制の充実を期待する。

＜行動目標＞
① 転院、在宅診療等、円滑な地域連携に必要な役割を理解し、複数診療科の連携を実践できる。
② 併存疾患による臓器リスクを考慮に入れた治療方針を理解し、がん治療と併存疾患マネージメントの両立を実践できる。
③ 集学的治療の方針を理解し、関連科との良好な連携とチーム医療体制にリーダーシップを発揮できる。

キャリアパス（モデルコース）



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。また、医師・薬剤師・看護師・ソーシャルワーカー・ケアマネージャーなど多職種を対象とするがん医療のスキルアップを目指す方向け短期・長期のプログラムについては、帝京大学　がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン　（http://www.teikyo-ganpro.jp/）を参照してください。